



コラム 映画が好きだ

日本にハリウッドをつくる

中央大学法学部4年 山口大介

小説家や脚本家になるほどの文才があるわけでも、映画評論家のように飯の次に映画が好きというほどでもない。映画業界に進むことを夢見て、動き回っているだけである。

本稿を、独断と偏見で最近の映画事情や映画紹介をさせていただくコーナーにしたいと思うのだが、これを読んだ時間を返せといった苦情には、クーリングオフは適用されませんのでご了承を。



人間ドラマなら日本製作

身近なところから書くこととする。21年間の短い蓄積から引っ張り出した知識である。なぜ私が、こんなにも映画、映画とはしゃいでいるかというと、将来、日本にハリウッドを作りたいと思っている。

●
またまた、小学生みたいな夢を語るやつがいるよ、とあきれた方もいるかと思うが、聞いていただきたい。

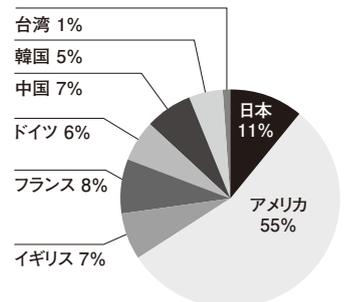
なぜ、作りたいか。映画好きなのはもちろんのこと、日本の映画産業の構造があまりにもビジネスとして効率悪く作られていると感じたからだ。

映画の中心は?と聞かれたら、皆さんは真っ先に「ハリウッド」と答えるだろう。このシステムは実にうまく機能していて、立派にビジネスとして成り立っている。日本映画とハリウッド映画を見比べて、大きな違いは、映画製作の予算のかけ方にある。

日本映画のほとんどが、低予算で組まれており、映像的なクオリティで戦うことができない分、脚本などのアイデア勝負でヒットを狙おうとしている。それが悪いというわけではない。日本映画は、迫力はないものの、心情に迫った人間ドラマがうまく描かれていたりする。

日本の映画産業がうまくまわっているのか
たとえば、今の業界を席巻しているのは、テレビ局映画であり、映画産業が単体で成功しているとは言えない。映画を観る人が徐々に減少して、映画業界の存亡を危ぶむ声もある。そろそろ終焉を迎えるのではないかと懸念する方もいるかもしれない。しかし、だからこそ、ハリウッドを日本に作る必要があるのだ。

2012における映画館 (BoxOffice) の興業収入の8カ国の比率



出典・日本のコンテンツの海外展開促進に関する基本調査

ハリウッド映画が、なぜ、成功するのか。後から収益を回収するリスクな映画に対して、なぜ数十億単位ものカネをかけて製作できるのか。

すべての答えは、ハリウッドのエコシステムと市場にある。

日本映画の市場が、国内だけであるのに対し、ハリウッド映画は世界を市場にしている。ハリウッド映画の「財布」を開けてみると、米国内では大赤字ということも少なくない。しかし、ひとたび世界中の映画館で上映されると、プラスになって返ってくる。

新企画

その収益で次回作へとステップアップする。失敗しても、ハリウッドという大きな支えがあるから、締め出されずに次の作品づくりができるようになっている。

このシステムが日本にはない。映画業界が生業を続けていられるのは、興行収入が世界第2位という「映画消費大国」であるからだ。日本人の映画好きに加えて、いささか高い映画料金が2位に押し上げた。

ヨーロッパや米国では800～1300円までが多く、日本の1800円より安い。消費大国でいられるのは、高料金でも映画を観てくれる日本人のおかげといえる。しかし今の時代、映像は動画投稿サイト「ユーチューブ」を筆頭に他メディアで見ることが可能となり、映画館からは人の足が遠のいている。困った事態である。

この状況を打破するために、日本のハリウッド計画を掲げたい。ハリウッド映画の成功には、万国共通の英語が要因の一つと思うが、日本映画が海外の映画祭で受賞し、他国でロングラン上映を飛ばしている様子を見る限り、日本語や日本の趣味嗜好は海外でも評価されている。

海外にも市場を広げ、相応の予算を組み込み、持ち前のアイデア勝負を重ね合わせれば、鬼に金棒ではなかろうか。

映画そのものの、これからの動向に疑問を呈す人もいられるだろう。しかし、有名監督の言葉を借りれば、まだまだ映画には未来がある。

演劇、音楽、彫刻、絵画などの表現が2000年もの歴史を持っているのに対して、映画はまだ100年足らずの新参者である。

どういった形に変わるかは、映像技術の進化に懸ってくるとは思えないが、芸術としての映像が残っていくことは確実である。

今後、素晴らしい芸術作品を日本で製作できるよう、土台づくりの一助になりたいと思っている。

国別	映画館料金
日本	1800円
アメリカ	1185円
イギリス	1297円
フランス	814円
ドイツ	785円
香港	966円
シンガポール	427円
韓国	600円

電子書籍アプリ 『白門書房』



『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、日本の大学初の電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。Apple Inc. が運営するiPhone、iPod touch、iPad向けソフトウェアのダウンロードサービスであるApp Store (アップストア) から『白門書房』をダウンロードします。Appストアへは、無線LAN (Wi-Fi) を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』をダウンロードすると、あらかじめ本棚に収められている大学案内他4冊の広報誌を読むことができます。ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、3GやWi-Fiを通じて「ストア」にアクセスし、何冊でもダウンロード可能です。

なお、同様のサービスをAndroid版でも提供しておりますので、ぜひご利用ください。(Android4.0以上推奨)

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、電子書籍出版社である想隆社が開発したものであり、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>